大谷中学校・高等学校

令和８年度学校関係者評価委員会

【日　時】令和８年７月１日（水）13:30～15:00

【場　所】大谷中学校・高等学校　Ａ館大教室

【出席者】（敬称略）14 名

北本　義章	大阪市立松虫中学校校長
大竹野謙一	大阪市立丸山小学校校長
大谷　武彦	株式会社 ERP 代表取締役
西中　徹	大阪大谷大学副学長
石川　賢一	保護者代表（現ＰＴＡ会長）
佐野　淑	卒業生代表（成美会）
萩原　英治	校　　長
市居　政彦	教　　頭
山下　愛子	教　　頭
澁谷　敬史	教　　頭
大橋　康司	教務部長
嶋崎　信武	生活指導部長
河野さち子	進路指導部長
田所トシヨ	英語・海外教育部長

【次　第】司会：教頭・市居政彦

１）開会の挨拶……校長・萩原英治

２）出席者紹介……校長・萩原英治

３）資料説明……教頭・市居政彦

４）令和７年度総括（資料 1）……校長・萩原英治

５）各部署からの報告（資料 1）

教務部・大橋，進路指導部・河野，生活指導部・嶋崎，英語・海外教育部・田所，広報部・萩原・市居

６）アンケート資料説明（資料 2～5）……教頭・澁谷敬史

７）令和８年度学校経営計画等（資料 6）　……校長・萩原英治

８）評価委員各位からのご意見等

９）開会の挨拶……校長・萩原英治

※　資料１『令和７年度　大谷中学校・高等学校　学校評価』

資料２『令和７年度　生徒アンケート』

資料３『令和７年度　保護者アンケート』

資料４『令和７年度　教員による学校自己評価』

資料５『令和７年度　授業アンケート』

資料６『令和８年度　学校経営計画』

資料１

大谷中学校・高等学校
校長　萩原　英治

令和７年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

１１６年の歴史を持つ本校は、３万を超える幾多の人材を輩出し、女子教育に邁進してきた。その伝統を引き継ぎ、
１　報恩感謝の精神に基づく宗教的情操教育を通じて、慈悲の心を有する優しい女性を育成する。
２　より高度な学力養成をはかり、自ら課題を発見し、解決するための論理的思考力、判断力、表現力を高め、高い知力を備えた聡明な女性を育む。
３　宗教的情操教育を基盤とした生活指導により、礼儀正しく心の美しい女性を育てる。
以上により、人間力に秀で、グローバルに活躍し、社会に貢献する女性を育成する。

２　中期的目標

１．　学習指導
① 授業改善に一層取り組み、教員の授業力を向上させる。
② コース、課程に応じた学力向上の取り組みを強化する。
③ 自ら学びに向かう姿勢を養い、学習習慣の確立と学力の定着・伸長をはかる。

２．　進路指導
① 生徒の進路や個性に応じたコース編成で一人ひとりの力を最大限に伸ばすべく、個々の理解度・到達度に応じた丁寧な指導を図る。
② 中高一貫の６年間ならびに３か年課程の高校３年間において、生徒の希望進路の実現に向けた進路指導の展開に努める。
③ 将来、社会で生き抜いていく確かな力を身に着けさせるため、キャリア教育を通じ、自己の適性や社会との関わりを意識させることで、広い視野を持ち、深く考え、自己を表現できる人間に育てるべく、様々な取り組みを工夫する。

３．　生活指導
① 「あいさつ」「ていねいな言葉遣い」「時間厳守」を年間生活目標に設定する。
② 生徒対象に防災教育、ＳＮＳや薬物の危険性、心肺蘇生の講習などを実施し、生徒に対して啓発に努める。
③ 教員対象に生活指導や生徒相談に関する研修を実施し、情報を共有し、全職員で指導にあたるべく努力する。安全で安心な学校づくりのため、カウンセリングや必要に応じた教育支援の充実、学園カウンセラーとの連携などを通じた指導の充実を図る。

４．　海外教育
① グローバル化時代に対応した生徒の国際感覚を育成する。
② 様々な場面を活用し異文化理解に努める。
③ 英語によるプレゼンテーションの向上を図る。
④ ニュージーランド１年留学・３か月留学を通じて、実用的英語力の涵養を図る。

５．　生徒募集・広報活動
① 中学校入試では入試行事参加者を増やし、入学者数増加のため、より積極的に広報活動に努める。
② 高校入試では本校３か年課程について幅広く周知するため、広報活動を徹底し、入学者増をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校評価委員会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［令和８年７月実施分］	学校評価委員会からの意見
生徒、保護者、教員を対象に令和７年１２月から約１か月間、BLEND でアンケートを実施した。 ○アンケート結果の主なポイント 【高評価な点（成果）】 ・生徒アンケート 項目１・２が高評価。これは「宗教的情操教育」の成果と考えられる。 ・保護者アンケート 高評価項目が７つあり、生徒・保護者ともに学校への満足度は高い結果となっている。 【低評価・課題となる点】 ・家庭学習習慣 授業アンケート（資料５）の結果も含め、今後の大きな課題である。 ・教科間連携（教員による自己評価） 例年に比べ評価が低く、今後情報を密にする取り組みが必要である。 例えば、長期休暇中の課題量の調整などが挙げられる。 ○今後の方向性 「主体的な学び」に向けて、生徒がさらに成長できるような学校体験を作っていく必要がある。	1. 授業・学習指導の改善と支援 教員の質向上に向けた授業見学や校長の授業参観が評価される一方、理解が追いついていない生徒（2 割以上）へのフォローアップや、自主学習支援（OSR）の継続・充実が求められている。 2. 生活指導（挨拶・言葉遣い）の継続 挨拶運動や丁寧な言葉遣い、正門での一礼などの指導は高く支持されており、現代的な課題（LINE 世代の表現や言葉遣いなど）に対する指導も含めて継続が期待されている。 3. 学校の特色出しと広報活動の強化 少子化が進む中、明確な特色や安心の進路保証のイメージ作りが不可欠。「なぜ学ぶのか」を意識させ、自分で目標を立てる教育や、SNS などを活用した積極的な発信が望まれている。 4. 学校を支える温かいパートナーシップ 保護者や卒業生（成美会）から、日々の丁寧な指導への感謝と信頼が寄せられており、PTA 活動や同窓会通信・文化祭などを通じて、学校の魅力発信や生徒募集に一体となって協力したいという強い想いがある。

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
１学習指導	①教員の授業力向上 ②コースに応じた学力向上の取り組みを強化。 ③学習習慣の確立と基礎学力の定着。	① ・校長は授業参観を行い、指導助言を行う。 ・生徒による授業アンケートを行い、授業力向上に活かす。 ・授業研鑽週間を３学期に設ける。 ・ICT を活用し、「新しい学力」を生徒が習得できるための学習指導を工夫し、授業に活かす。 ・教務部と進路指導部が連携して、学習指導委員会を運営し、教育課程・シラバス・年間指導計画の妥当性のチェックと改善を行う。 ・DX ハイスクール指定を受け、探究活動を含めた新科目を設置し教育課程を変更する。 ② ・各学年で生徒の考査成績や模試成績を分析し、コースに応じた学力向上対策を実施する。 ③ ・学習習慣の確立と基礎学力定着のために小テストを実施する。 ・各学年の学習状況を、具体的に把握をする。 ・中一、中二について「0. S. R」を着実に実行し、成果を上げる。	① ・ 校長の指導助言を受け、授業改善に取り組む。 ・ 授業アンケート結果を参考に、授業改善に取り組む。 ・ 中学、高校の授業をそれぞれ１回以上見学し、報告書を提出する。 ・ 一人一台のタブレットを活用し、リモート授業にも対応するとともに、生徒が自ら学ぶ意欲を持ち、思考力、判断力、表現力を習得させる。 ・ 学習指導委員会による検討内容を全教員が共有し、学年間や教科間での連携、現状認識を徹底させ、授業の充実や学習指導の改善に活かす。 ・ 新科目「DX 探究」のシラバスを作成し、R8 年度からの運用をめざす。 ② ・ 考査や模試の偏差値で 40 以下となるような成績となる生徒をなくすとともに、各学年の中間成績層をのばす。 ・ 上位層の数を増やす。 ③ ・ 全員合格を目指して指導する。 ・ 成績不十分者には追試や課題などを与える。	① ・ ほとんどの教員が授業研鑽を行い、報告書を提出した。ただ、その内容についてのフィードバックは不完全である（△） ・ 授業アンケート：中・高全生徒が全授業に対し 10 質問項目，4 択で回答。総合評価の質問（「この授業を受けることで，何かが分かる（できる）ようになったり，興味・関心が高まったりした。）→ 「そう思う」・「どちらかと言うとそう思う」計 88.3%（全授業・生徒全員の平均）（○） ・ 出席停止あるいは長期間の入院が必要となった生徒に対して、オンライン授業を行った。また、ICT の活用が年々広がり、学習活動の活性化につながっている。（○） ・ 学習指導委員会では、生徒の現状に応じて、授業の進め方や効果的な講習のあり方について検討してきた。中 1・2 年生の平常講習は１学期中間考査明けから新しい取り組みを取り入れている。（△） ・ 高校新カリキュラムについては、各教科で浸透し、検証を行った。（○） ② ・ BLEND による定期考査・学力考査の成績を生徒、保護者に配信し、個々の学力到達度を教員と共有し、学力向上に努めた。（○） ③ ・ 放課後学習支援教室（0.S.R）の活用を促し、学習習慣の定着を目指し、下位層をなくすことに努めた。今後も継続が必要である。（△）・高校では進路にあった講習を実施した。（○）
２進路指導	①個々の理解度・到達度に応じた丁寧な指導。 ②中高の六年間を生徒の成長に沿った適切な進路指導の展開。 ③キャリア教育を通じ、広い視野を持ち、深く考え、自己を表現できるための様々な取り組みを工夫。	① ・ 平常講習や長期休暇中の講習を実施する。 ・ 卒業生のチューターを活用して少人数の個別指導をしたり、体験談を聞く機会を設けモチベーションアップにつなげる。 ・ 中高一貫６か年課程、高校３か年課程それぞれにおける６年間、３年間の学びの道筋を可視化し、全教員で共通認識を図る。 ・ 学習や進路についての個別面談をきめ細やかに行う。 ② ・ 生徒自らが適切な進路選択を行えるように、適切な時期に進路について考える機会を設け意識を促す。 ・ 模擬試験を活用し、自身の学習到達度を把握させる。 ③ ・ 生徒が将来の姿を思い描く手がかりになるように、様々なキャリア体験の機会を設ける。 ・ 大学の出前授業や外部団体による体験授業などを活用し、生徒のモチベーションのアップを図る。	① ・ それぞれの講習の日程・回数・内容について、生徒のニーズに適っているか、７割以上の満足度を得られているかを確認する。 ・ 課程・コースの目標に沿った学習計画・学習内容を再度構築し、生徒の学力の着実な向上、希望進路の実現に取り組む。 ② ・ 国公立大学の合格者数が在籍人数の２割を超えること、医学部医学科合格者数をのべ 20 名程度、関関同立の合格者数がのべ 120 名以上をめざす。 ③ ・ 学年ごとに将来の進路決定につながるキャリア行事を行う。 ・ 外部講師を招いての講演会を、高校各学年において１回ずつは実施する。 ・ 休暇中に実施される外部体験学習などへの参加を勧める。 ・ 報告文・感想文などを提出させる機会を多く設ける。	① ・ 医学部医学科の合格数は 11 名となり、R6 年度 15 名を上回ることができなかったが、初年度Ｓ医志クラスから４名の現役合格を出すことができた。（△） ② ・ 国公立大学の合格数は過年度を含み 44 名、現役のみ 40 名であった。R6 年度は 35 名（現役 28 名）であったので R6 を上回ることはできたが、在籍数 223 の 2 割（44 名）は達成した。（○） ・ 関関同立大の合格数が 79 名となり、3 桁に届かなかった。（△） ③ ・ 各学年のキャリア行事については、外部講師による講演会、または見学会・体験学習などで実施することができた。（○） ・ 体験授業（中三）・English Immersion（中二）・外部団体による授業（高１高２　S 医）などでは、生徒のモチベーションアップをはかることができた。（○）

３生活指導	①「時間厳守」「あいさつ」「ていねいな言葉遣い」。 ②生徒対象防災教育、SNS や薬物の危険性、心肺蘇生の講習などの実施。 ③教員対象に生活指導や生徒相談に関する研修を実施。学園カウンセラーとの連携などを通じた指導の充実。	① ・ 講堂朝礼や毎朝の登校指導において生徒たちへの声掛け指導を行う。 ・ 遅刻の多い生徒への個別指導を行う。 ② ・ 防災避難訓練の実施。SNS についての講演。 ・ 薬物についての講演。性被害についての講演。 ③ ・ いじめに関する職員人権教育研修会を実施。 ・ 学園カウンセラーによる職員研修を実施。 ・ 学園カウンセラーとの情報交換。	① ・ 生徒・保護者へアンケートを行う。遅刻指導の報告書を共有し、指導をチームで行う。 ② ・ 生徒・保護者へアンケートを行う。危機管理について一人一人に意識付けを行う。 ③ ・ 教員アンケートを実施し、教員の理解の向上に努める。	① ・ 講堂朝礼や毎朝の登校指導において生徒徒たちへの声掛け指導を行う。（〇） ・ 遅刻の多い生徒への個別指導を行う。（〇） ② ・ 防災避難訓練の実施。（〇） ・ SNS についての講演。（〇） ・ 薬物についての講演。（〇） 性被害についての講演。（〇） ③ ・ いじめに関する職員人権教育研修会を実施。（〇） ・ 学園カウンセラーによる教員研修会を実施。（×） ・ 学園カウンセラーとの情報交換。（〇） ・ エピペン（アレルギー）講習会を実施。（〇）
４海外教育	①グローバル化時代に対応した生徒の国際感覚を育成。 ②異文化理解。 ③英語によるプレゼンテーションの向上。 ④ニュージーランド１年留学・３か月留学を通じて、実用的英語力の涵養。	① ・ 夏期海外研修・姉妹校交流などを推進する。 ・ グローバル・イングリッシュ・ゾーンにおける活動を推進する。 ② ・ ハートグローバルをはじめとする異文化交流を積極的に推進する。 ③ ・ グローバル・イングリッシュ・ゾーンでの活動内容を充実させる。 ・ SDGs に関わるテーマについて情報収集と交流をすすめる。 ④ ・ ニュージーランド留学の成果を他の生徒の前で発表させる。	① ・ ニュージーランド夏期研修・オーストラリア夏期研修を通じて国際理解を深める。 ・ GEZ におけるネイティブとの英語レッスンの参加者アンケートを実施する。 ② ・ ハートグローバルを招聘し、様々な文化に触れ理解を深める。 ③ ・ 同世代の外国の学校と SDGs に関わる交流を実践して、相互理解を通じて世界的な課題を認識して、現状認識を将来の展望について考えさせる。 ④ ・ 一人もしくは少数者による英語プレゼンテーションを数多く経験させて、実用英語力の定着を図る。	① ・ オーストラリアに 30 人の高校生を連れて行き、本校の姉妹校を訪問、また、ブリスベンを訪れ大学生と交流するなど中身の濃い研修となった。 中学二年・三年生 30 人をニュージーランドへ連れて行き、姉妹校を訪問するなど、若年層に国際感覚を育成することができた。GEZ での活動は初級・中級共に 30 人前後の生徒が集まり、ネイティブと英会話を楽しんでいた。（〇） ② ・ ハートグローバルにおいて海外の若者と交流することにおいて自己発見の機会を与えた。（〇） ③ ・ 大阪万博に来ていたイギリス人によるワークショップでヒマラヤの人の生活を考えた。（〇） ④ ・ 帰国生に１人あたり約４回プレゼンをさせた。（△）
５生徒募集・広報活動	①＜中学校入試＞入試行事参加者を増やし、募集定員確保のための積極的に広報活動。 ②＜高校入試＞幅広く周知できるよう広報活動を徹底し、募集定員確保。	① ・ 参加人数を増やすとともに、行事の質を担保することで、参加者の満足度を高める。 ② ・ 塾訪問の回数を維持すると同時に、新たに訪問する塾を増やす。 ・ 公立中学訪問の回数を維持すると同時にダイレクトメール等で、入試情報提供を行う。 ・ 中学校への広報を学年主任・担任の先生方にまで浸透するよう取り組む。	① ・ 参加者アンケートを分析する。 ・ 出願者の通塾先の分析を行い、広報活動につなげる。 ② ・ 出願者の出身中学・塾を分析し、訪問活動に活用する。 ・ 本校説明会や外部相談会本校ブース参加者の人数を増加させる。	① ・ アンケートや通塾先の分析を行い説明会の内容を改善し、塾訪問も効果的にできたものの、回数をさらに増やすべきであると考える。 ② ・ 説明会ブースで人数は少し増えたが、更に説明会の質の向上、開催の周知徹底、及び塾訪問回数の増加を目指すべきだと考える。

令和７年度（２０２５年度）　生徒アンケート

集計　938名（回答率85%）資料２

質問番号	各項目について、下の１～４のうち、もっともあてはまるものを選び、回答欄に数字を記入してください。 １：そう思う　２：どちらかといえばそう思う　３：あまりそう思わない　４：そう思わない	中高全体（%）				昨年度			
		1	2	3	4	1	2	3	4
1	朝礼、終礼や校門での一礼にまじめに取り組めていますか。	57%	38%	4%	1%	60%	34%	4%	2%
2	日常、その場に応じた適切な言葉遣いができていますか。	43%	49%	7%	1%	46%	46%	7%	1%
3	日常生活で時間を守って生活できていますか。	43%	43%	11%	3%	49%	37%	12%	2%
4	挨拶は自分からできていますか。	40%	40%	17%	3%	43%	40%	14%	3%
5	授業は理解できていますか。	25%	51%	19%	4%	29%	51%	17%	3%
6	小テストや講習にまじめに取り組んでいますか。	34%	46%	16%	4%	36%	45%	15%	4%
7	毎日、家庭学習(O.S.R.を含む)はできていますか。	34%	36%	22%	8%	34%	36%	23%	8%
8	学校で実施している見学会・講演会・出前授業・体験学習などは将来を考えるための機会になっていると思いますか。	33%	48%	14%	5%	34%	43%	17%	6%
9	大谷の海外研修や留学生との交流により国際理解が深められていると思いますか。	34%	41%	16%	9%	35%	40%	16%	8%
10	SNSやスマートフォンの利用について、家庭で決められた使用方法などのルールを守っていますか。	45%	38%	11%	5%	32%	47%	15%	5%
11	学校における活動に積極的に取り組んでいますか。	41%	46%	9%	3%	45%	44%	9%	2%
12	学校行事は楽しいですか。	66%	28%	4%	2%	66%	27%	5%	2%
13	家族と話し合う時間が取れていますか。	60%	30%	8%	3%	62%	27%	10%	1%
14	大谷の先生はあなたを大切にみてくれていますか。	38%	44%	12%	5%	38%	45%	12%	5%
15	大谷中高に入学して満足していますか。	39%	44%	11%	6%	40%	42%	12%	6%

※　質問番号10について、SNSを利用していない…2%（16名）

質問事項は昨年度と同じ

他の項目に比べて高い評価

他の項目に比べて低い評価

令和７年度（２０２５年度）　保護者アンケート

集計　838名（回答率76%）　資料３

質問番号	各項目について、下の１～４のうち、もっともあてはまるものを選び、回答欄に数字を記入してください。 １：そう思う　２：どちらかといえばそう思う　３：あまりそう思わない　４：そう思わない	中高全体（%）				昨年度			
		1	2	3	4	1	2	3	4
1	大谷の教育理念・教育方針について賛同されていますか。	52%	42%	5%	1%	55%	41%	3%	1%
2	お嬢様は日常、その場に応じた適切な言葉遣いができていますか。	35%	54%	10%	1%	36%	54%	8%	2%
3	お嬢様は日常、時間を守って生活できていますか。	34%	45%	17%	5%	38%	42%	17%	3%
4	お嬢様は日常、挨拶ができていますか。	52%	41%	6%	1%	54%	38%	7%	1%
5	大谷では生徒のニーズに対応した教育課程や学習指導がなされていると思われますか。	29%	49%	18%	5%	29%	52%	14%	4%
6	保護者の方に生徒の学習状況・成績等はわかりやすく伝わっていますか。	42%	44%	12%	2%	44%	45%	10%	1%
7	お嬢様は家庭学習の習慣(O.S.R.を含む)が身についていると思われますか。	24%	37%	28%	11%	29%	37%	26%	8%
8	大谷が実施している見学会・講演会・出前授業・体験学習などは、お嬢様が自分の将来を考えるための機会になっていると思われますか。	29%	52%	17%	3%	30%	52%	16%	2%
9	大谷の海外研修や留学生との交流により、国際理解が深められていると思われますか。	25%	50%	21%	4%	26%	48%	24%	2%
10	お嬢様はSNSやスマートフォンの利用について、ご家庭での使用方法などの決まりを守っておられますか。※	24%	44%	22%	8%	29%	41%	21%	8%
11	大谷のＰＴＡ活動は活発だと思われますか。	20%	60%	19%	2%	18%	54%	26%	2%
12	保護者あての文書・連絡等は適切であると思われますか。	45%	47%	7%	1%	49%	43%	7%	1%
13	ご家庭でお嬢様と話し合う時間が取れておられますか。	55%	37%	7%	1%	58%	36%	6%	0%
14	大谷は生徒の安全面で事故の防止に配慮していると思われますか。	39%	52%	8%	1%	44%	49%	6%	1%
15	大谷では生徒に関するプライバシーが守られていると思われますか。	39%	53%	7%	2%	43%	46%	9%	2%
16	大谷が保護者の方とお話する機会をもっていると思われますか。	30%	50%	17%	3%	32%	48%	18%	2%
17	お嬢様を大谷で学ばせることができてよかったと思われますか。	50%	41%	7%	2%	54%	37%	7%	2%

※　質問番号10について、SNSを利用していない…2%（20名）

質問事項は昨年度と同じ

他の項目に比べて高い評価

他の項目に比べて低い評価

令和７年度（２０２５年度）　教員による学校自己評価

65名（回答率100%）　資料４

項目番号	各項目について、下の１～４のうち、もっともあてはまるものを選び、回答欄に数字を記入してください １：そう思う　２：どちらかといえばそう思う　３：あまりそう思わない　４：そう思わない	中高全体（%）				昨年度			
		1	2	3	4	1	2	3	4
1	学校の教育方針、教育目標、年度毎の努力目標について周知されている。	42%	46%	11%	2%	29%	53%	15%	3%
2	建学の精神である「宗教的情操教育」が教育活動全体を通じて実践できている。	40%	52%	8%	0%	37%	53%	10%	0%
3	朝礼、終礼時には瞑目や合掌、讃歌斉唱がきちんと実践できている。	65%	31%	3%	2%	78%	20%	0%	2%
4	今年度の生活指導の目標を意識して生徒指導ができている。	25%	49%	25%	2%	20%	56%	15%	8%
5	宗教的行事（はなまつり、報恩講、追弔会、了秀忌、早朝勤行など）が意義あるものとして実施できている。	57%	38%	5%	0%	53%	46%	2%	0%
6	新しい教育課題や生徒のニーズに対応した教育課程が工夫されている。	17%	49%	26%	8%	19%	53%	22%	7%
7	教科でよく話し合って学習指導計画を立て、指導にあたっている。	22%	52%	20%	6%	22%	49%	19%	10%
8	学習指導計画について、他教科とも情報交換し連携している。	8%	28%	48%	17%	24%	54%	17%	5%
9	生徒の思考を促す授業を心がけている。	34%	58%	3%	5%	29%	58%	14%	0%
10	授業に対する生徒の興味・関心を引き出すよう、体験学習や問題解決学習など多様な指導を工夫して取り入れている。	22%	63%	14%	2%	24%	49%	25%	2%
11	教員間の参観等で授業内容を相互に評価するなど、学習指導力の向上に努めている。	23%	54%	20%	3%	25%	49%	20%	5%
12	授業参観や保護者懇談会などを通じて、本校の学力向上の取り組みが保護者にもよく理解されている。	23%	65%	12%	0%	15%	66%	17%	2%
13	生徒が望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう、各学年に応じた系統的な進路指導を行っている。	28%	52%	17%	3%	25%	54%	15%	5%
14	生徒一人一人が興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい情報提供を行っている。	29%	62%	8%	2%	31%	51%	17%	2%
15	本人の適性に応じて学内でのコース変更や受験校選定指導をていねいに行っている。	29%	55%	14%	2%	39%	41%	14%	7%
16	個人情報等の取り扱いに最新の注意を払っている。	52%	42%	3%	3%	51%	39%	7%	3%
17	ICT機器を利用した授業を実践している。	45%	43%	12%	0%	44%	44%	12%	0%
18	生徒指導において、カウンセリングマインドを持って生徒に接するよう教職員の共通理解が得られている。	26%	55%	14%	5%	27%	46%	20%	7%
19	教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員やカウンセラーとも相談することができる。	52%	37%	9%	2%	42%	46%	8%	4%
20	生徒指導において、家庭との緊密な連携ができている。	49%	46%	5%	0%	32%	59%	7%	2%
21	いじめ防止のための取り組みや体制づくりに努力している。	38%	58%	3%	0%	27%	61%	8%	4%
22	人権教育の推進について計画的に取り組んでいる。	32%	54%	12%	2%	27%	56%	14%	3%
23	海外教育の取り組みによって国際理解が深まっていると思う。	32%	54%	12%	2%	31%	53%	17%	0%
24	学校行事が生徒にとって魅力あるものとするために、工夫・改善を行っている。	42%	45%	14%	0%	32%	51%	15%	2%
25	部活動が盛んで、生徒もよく参加している。	23%	48%	26%	3%	19%	53%	20%	8%
26	ホームページや学校説明会などを通じて、本校を理解いただくための情報提供が適切になされている。	42%	54%	5%	0%	37%	49%	10%	4%

質問事項は昨年度と同じ

他の項目に比べて高い評価

他の項目に比べて著しく低い評価

他の項目に比べて低い評価

資料 5

大谷中学校・高等学校 2025 年度授業アンケート概要

2025 年 12 月 25 日

実施日　12 月 11 日～17 日（学年ごとに日時を指定して一斉実施）

実施形態　Microsoft Forms フォームに，学級担任の指示で生徒が iPad から入力。複数回答を防ぐため，学校用 Microsoft アカウントでのサインインを必須とした。

対象科目　特別活動（HR）を除く全授業科目

結果活用　授業担当教員（ALT 教員を除く）に各個人別の集計結果を印刷物で交付。

質問項目

(1) この授業について，あなた自身の普段の取り組みについて回答してください。

質問 01: 予習・復習をしたり，十分な準備をして毎回の授業に臨んだ。[自己評価(1)]

質問 02: 授業中は集中し，まじめに取り組んだ。[自己評価(2)]

(2)ご担当の先生について，あなたがどう感じたか，回答してください。[教員評価]

質問 03: 授業の進度・難易度は，私にとって適切であった。 [生徒理解(1)]

質問 04: 私たちの状況を確かめながら授業を進めてくれた。[生徒理解(2)]

質問 05: これから何を学ぶのか，目標や大切なポイントを説明してくれた。 [授業計画(1)]

質問 06: 先生の声ははっきり聞き取れ，説明や指示は分かりやすかった。 [授業展開]

質問 07: 板書（画面），プリントは見やすく，分かりやすかった。 [教材活用(1)]

質問 08: 課題（宿題）の量は多すぎたり少なすぎたりせず，私にとって適切だった。 [教材活用(2)]

質問 09: 先生は，常に授業をより良いものにしようとしてくれていた。[授業分析]

(3)この授業を振り返ってあなたがどう感じたか，回答してください。

質問 10: この授業を受けることで，何かが分かる（できる）ようになったり，興味・関心が高まったりした。[総合評価]

結果（中・高 全教員による全授業の平均）

	そう思う	どちらかと言うとそう思う	どちらかと言うとそう思わない	そう思わない
質問 01 [自己評価(1)]	34.5%	38.8%	17.0%	9.7%
質問 02 [自己評価(2)]	61.5%	32.3%	4.8%	1.4%
質問 03 [生徒理解(1)]	54.9%	33.2%	8.9%	3.0%
質問 04 [生徒理解(2)]	59.2%	29.9%	7.9%	2.9%
質問 05 [授業計画(1)]	62.2%	29.4%	6.1%	2.4%
質問 06 [授業展開]	66.7%	24.7%	5.8%	2.8%
質問 07 [教材活用(1)]	63.3%	27.0%	6.2%	3.5%
質問 08 [教材活用(2)]	61.6%	28.7%	6.1%	3.6%
質問 09 [授業分析]	65.4%	28.0%	4.4%	2.2%
質問 10 [総合評価]	54.7%	33.6%	7.8%	3.8%

大谷中学校・高等学校

令和８年度学校関係者評価委員会　結果報告

令和８年７月１日（水）に本校Ａ館大教室において、学校関係者学校評価委員会を実施した。外部委員の方々よりご質問や貴重なご意見をいただいた。以下報告する。

Ⅰ.令和７年度総括　（資料１・P1）

1.　めざす学校像について

建学の精神が重要。校祖の「次世代の命をはぐくむ女性にこそ高い教養と豊かな魂を」を礎に、報恩感謝の気持ちを育てる。めざす学校像として、「慈悲の心を有するやさしい女性」「高い知力を備えた聡明な女性」「礼儀正しく心の美しい女性」の育成を掲げている。

2.　中期的目標１～５について

１．学習指導

授業に学校教育のすべてがある。昨年度初めて生徒による授業アンケートを実施した。また、校長による授業見学、希望者を募っての公立高校（文理学科設置校）の授業見学などを通して授業改善をはかっている。

２．進路指導

令和７年度大学合格実績は、医学部医学科 11 名、国公立大学 44 名。医療系への進学が多いのが、本校の特徴。大阪歯科大学には９名が合格。一方で、京都大、大阪大については、次年度以降の課題となった。

３．生活指導

目標の「あいさつ」については、ここ数年で改善していると感じる。着任当時は、あまり挨拶をしない印象を持ったが、教職員が率先して声をかけることで、自分から挨拶する生徒も増えてきた。

４．海外教育

凛花コースでは、3 か月または１年間のニュージーランド留学を実施した。海外での学びを希望する生徒は増えている。それを踏まえて、新たな取り組みも考えている。

５．生徒募集・広報活動

中高とも入学者減。特に中学入試で大きく入学者を減らし、学園にも少なからず影響を与えた。今後どのような方策が必要か、皆様からご意見をいただきたい。

Ⅱ.各部署からの報告（資料１・P2～3）

１．学習指導について

- 昨年度初めて「授業アンケート」を実施した。詳細は、資料５。総合評価では、『そう思う』『どちらかと言えばそう思う』を合わせて 88.3%となり、概ね高評価を得られた。
- DX ハイスクール指定を受け、今年度から新科目「DX 科学探究」を実施している。
- OSR も継続して活用している。

2．進路指導について

・S 医志一期生 19 名が卒業。医学部医学科は、 4 名合格。うち、国公立医学部医学科は 1 名。国公立合格 44 名で、在籍数の 20%が国公立合格ということになるので、目標達成できた。
・京阪神合格を目標とする生徒を集めて授業プロジェクトを立ち上げることも考えている。
・弁理士、看護師等の出前授業や、卒業生による講演等を行い、様々な職業人を知る契機を提供した。
・中学 2 年生を対象に実施した English immersion は、高い満足度を得た。今年度は、高校 1 年生を対象に Global Studies Program を実施する。

3．生活指導について

・重点目標は、「あいさつ」「時間厳守」「ていねいな言葉遣い」教員から積極的に挨拶することで、生徒が自分から挨拶するようにしている。
・遅刻指導は、声掛け、遅刻改善指導書等、生徒個々の事情に応じて対応している。
・中一では SNS 教育、中二では薬物乱用防止教育、中三と高 1 の 3 か年入学生には性被害教育をそれぞれ講演で実施。
・職員対象に「いじめに関する人権教育研修会」を実施し、いじめに対する理解を深めた。
・学園カウンセラーと担任の情報交換を密に行い、生徒理解に努めた。

4．海外教育について

・ニュージーランド夏期研修、オーストラリア夏期研修、GEZ 活動（ネイティブとの英語レッスン）を通じて、国際理解を深めた。
・ハートグローバルを招聘し、ホームステイ、ワークショップ、ショーの実演を通して、自己発見の機会を設けた。
・イギリスの製薬会社勤務の本校卒業生を通じて、ヒマラヤの人々と GEZ で交流した。
・2 月実施のスピーチコンテストは、年々参加者が増加している。例年中学一年生も複数名エントリーしている。
・新しい取り組みとして、特進・医進両コースを対象とした中三ターム留学を企画し、英検 3 級以上・出発時準 2 級取得を条件として募集したところ、 9 名の応募があった。凛花の 1 年留学 9 名、3 か月留学 5 名とともに、2027 年 1 月にニュージーランドに出発する。

5．生徒募集・広報活動について

＊中学校入試
・中学入試では、134 名（昨年 161 名）と入学生を大幅に減らした。
・700 名程度の受験者数に関しては昨年並み。ただ大谷を第一志望とする受験生が多い一次 A 入試は、20 名程度減。
・明確な理由はわからないが、共学人気、併願校入試の出来具合による影響などが考え

られる。また、出願期間中にあった、京都の私立高校の修学旅行中の不祥事の影響があったと思われなくもない。

・他校の状況によらず、大谷を第一志望にする生徒がほしい。

・女子校人気の低下の影響は勿論あるが、首都圏では女子校人気が回復傾向にある。関西でもその流れに期待したい。

＊高校入試

・高校入試では、専願者は微増、併願者は微減で概ね昨年並み。プレミアム文理コースは、専願者が約 1.8 倍となりよかった。

・今年度から赤本も書店に並ぶことになった。戦略として、まずアドバンス文理コースをしっかり集める。プレ専願を増やすのはなかなか難しいので、プレは公立文理学科の併願校として定着をはかり併願受験生を確保したい。

・今年度から説明会を 2 回、オープンキャンパスを 2 回にした。受験生の参加を増やし、6 年一貫校のイメージが強い大谷の高校受験を広く認知してもらいたい。

・40 名×２クラスの定員充足に向けてがんばりたい。

Ⅲ.学校教育自己診断（アンケート）の結果と分析（資料１・２～５）

✧ 昨年 12 月から約 1 か月間、Blend で実施。資料２（生徒アンケート），３（保護者アンケート），４（教員アンケート）とも、ピンクは高評価、黄色は低評価を示す。

✧ 生徒アンケートの高評価項目（1，2）については、宗教的情操教育の成果であると考える。

✧ 保護者アンケートでは、高評価項目が７つあり、生徒、保護者とも学校への満足度は高い結果。

✧ 一方で、家庭学習習慣については、資料５の授業アンケートも含め、今後の課題と考える。「主体的な学び」に向けて、成長できる学校体験を作っていく必要がある。

✧ 教員による自己評価では、教科間連携の評価が著しく低く、昨年度からもかなりの減。長期休暇中の課題量の調整など、対策が必要と考える。

Ⅳ.評価委員各位からのご意見等

【学校全般に関して】

✧ 大学も同様の課題を抱えていて、共感する。

✧ 大谷生とよく会うが、印象は良い。

✧ 先生方は生徒たちをしっかり見ている。

✧ アンケート結果に基づき、改善しようとする姿勢がわかる。良いことである。

✧ 教職員の自己評価も含め、学校として学校評価に真摯に取り組んでいると感じる。

【1.学習指導について】

✧ 教員の質向上について、校長の授業参観は良いと思う。大学では、教員同士が授業を見学し、意見交換をしている。特に若い先生が積極的である。

✧ アンケート結果では、生徒アンケート（資料２）の項目５「授業は理解できていますか」が気になる。理解できていない生徒（2 割以上）のフォローアップが大事。

- ✧ 娘が中一から通い、現在高１。先生方が学習指導や進路指導に力を入れていることを保護者として実感している。
- ✧ 学習指導に関しては、授業についていけない生徒へのフォローアップが必要だ。OSR は、娘も利用している。自分で勉強する機会が増えた。良い取り組みだと思う。

【2.進路指導について】

- ✧ 子どもたちに判断させる機会を持たせることが大切だ。大谷翔平選手のように自分で立てた目標に向かって進ませる。途中修正もあり。なぜ学ぶのかを明確にし、自分で目標を立てさせる教育が重要だ。

【3.生活指導について】

- ✧ 生活指導の目標、挨拶や正門での一礼は大変共感できる。
- ✧ ていねいな言葉遣いは大学でも課題で、教員に友達のように口をきくこともある。
- ✧ 手紙の書き方の指導も必要。LINE 世代なので、文書に関して礼儀知らずの一面がある。
- ✧ 小学生でも年々挨拶しなくなっている。挨拶の声も小さい。子どもたちの生活スタイルが変化しているのか？挨拶指導はぜひ継続していただきたい。
- ✧ 学校を訪れるたびに、生徒から挨拶をしてくれる。あいさつの指導は、良い取り組みだと思う。

【5.生徒募集・広報活動について】

- ✧ 中学入試は、親の意向で受験する生徒が多い。人間性を育み、そのうえで、進路保証もあるという安心感が得られるというイメージ作りが大切だと思う。
- ✧ 毎年中三生に面接練習をするが、共学志望が多い。女子校として、どうやって志望者を増やすか難しいところだ。厳しい状況であるが、大谷の良さをアピールしてがんばってほしい。
- ✧ 子どもの数が減少する中、はっきりした特色を出して集めることが必要だ。
- ✧ 卒業生として、母校の生徒が減っていくのは悲しい。ぜひ、受験者数増加に努めてほしい。
- ✧ リーフレット等があれば、毎年３月に発送する「成美会通信」と一緒に送ることも可能。
- ✧ 今年も文化祭で、成美会としてお茶の提供をする予定。成美会としても学校支援を続けていきたいと思う。卒業生の子どもたちへの働きかけも重要だ。
- ✧ 海外教育に力を入れている他校（私立女子校）に、生徒が流れたというような話を聞いた。大谷はこれだけいいところがあるのに、知らない方が多い。
- ✧ SNS での発信に力を入れると聞いて、ぜひがんばってほしい。この学校に入りたいと思ってもらえるように、PTA も生徒募集活動に協力したいと思う。

Ⅴ.令和８年度学校経営計画等

- ✧ 家庭学習（宿題）については、提出させてチェックするだけでなく、その目的や意義を丁寧に説明する必要がある。
- ✧ OSR に関しては、少しずつ利用者が増えている。OSR の抱える課題を解決し、満足度向上を図る。
- ✧ 教員の自己評価結果を見ると、横のつながりがない。各教科の連携が必要。まずは、各学年で夏休みの宿題量の調整をする。
- ✧ 管理職と希望者教員による将来構想委員会（OSD）を立ち上げ、本校の将来像について、提言をまとめていく。
- ✧ DX ハイスクール事業として、高２で新科目「DX 科学探究」を実施。物理・生物の実験を行い、結果を情報処理して発表する。
- ✧ 進路指導では、医学部医学科、国公立大学、関関同立、それぞれの合格者数の数値目標を設定し、目標達成する。
- ✧ 京阪神を目標とする生徒を集めて、授業プログラムを立ち上げる。
- ✧ 生活指導では、カウンセリングマインドを重視し生徒指導を行う。
- ✧ 海外教育では、医進・特進対象にターム留学を新規で実施。帰国後の数学に関してはフォローが必要と考え、卒業式前に帰国するので春休みに数学補講の参加を必須とした。
- ✧ 広報活動では、Instagram など SNS 活用を強化。説明会参加者に後日お礼のメールを入れるなど、アフターフォローをしっかりする。

皆さんが非常に好意的で、「大谷、がんばれ」のお声をいただいたと思う。大変心強い。今後とも大谷応援団として、よろしくお願いしたい。